



天理市のデジタル地域通貨「ichica（イチカ）」でつなぐ支え合いの輪 ～イチカを使った地元消費で地域のお店も暮らしも元気に～

■デジタル地域通貨「イチカ」で地域支援

天理市は、長引くコロナ禍や物価高騰による影響を受ける市内全世帯の生活支援と地域経済の活性化を目的として令和4年8月にデジタル地域通貨「ichica（イチカ）」（以下、イチカ）の運用を開始した。イチカは専用アプリをスマートフォンにインストールすることで、1ポイント＝1円として市内のイチカ加盟店で買い物や飲食などに利用できる。利用者は、まずイチカチャージカード（1,000円又は5,000円）を現金で購入し、ポイントをアプリにチャージする。その後、イチカ加盟店での支払いの際に店舗に設置されたQRコードを読み取り使用ポイントを入力すれば支払いが完了する。イチカポイントは現金でのチャージだけでなく、同市が企画する健康増進活動や地域の活動に参加することでも受け取ることができる。

同市は、イチカの運用開始に先立ち市民約63,500人に対し、一人当たり3,000ポイントのイチカポイントを付与したQRコードを配布した。スマートフォンを利用していない人や利用が難しい人に向けては、紙のクーポン券での配布も行ったが約8割の人がデジタルで利用したという。また「プレミアム付き商品券」のイチカポイントでの発行や「出産・子育て応援交付金」については、これまでの現金支給以外にイチカポイントを選択できるようにするなど様々な行政活動にイチカを取り入れ、市民へのイチカの周知と利用促進に力を入れている。

■イチカでつなぐ“支え合い”のまちづくり

同年12月からは、イチカ加盟店を通してイチカによる売り上げの一部（割合は加盟店が自由に設定できる）が子ども食堂やフードバンクなど地域の支え合い活動を実施している団体や組織に寄付される「イチカプラス」の取り組みも始まった。

特にこれまで地域活動への参加や寄付に対するハードルが高いと感じていた人にとっては、イチカを利用するだけで気軽に地域貢献につながり、寄付先も明確なことから利用しやすいと喜ばれている。また、加盟店からは「市が行っている取組みなので安心」「店舗に設置したQRコードを読み取ってもらうだけで利用できるため、設備投資にかかる費用がなく簡単」という声も聞かれ、利用者、加盟店舗数とも当初の予想を上回り順調に増加し、令和5年3月1日現在387店舗が加盟している。

担当課では「イチカは、使えば使うほど地域の“支え合い”活動に還元される仕組み。市民が継続してイチカを使いたいと思えるよう更に利便性を高め、地域支援の輪を広げたい。また市民だけでなく天理市を訪れた市外、県外の旅行者にもイチカの利用を促進していきたい」と話す。

（村井 渚、八木陽子）



（左上から時計回りに）イチカプラス広報ポスター／QRコードでの決済の様子／イチカのぼり

【お問い合わせ先】

天理市役所
市民総活躍推進課



特設 HP：<https://tenri-ichica.com>

TEL：(0743) 63-1001（内線 514）

FAX：(0743) 62-5016